



楠隼中学校・高校だより

第7回体育祭 特別号

全国から生徒が集う全寮制中高一貫教育校

曇天のもと、9月10日(金) 10時から、第7回体育祭を挙行了しました。昨年は、新型コロナウイルス感染症のため中止となりましたが、十分な感染対策を行った上で無観客の状況で行いました。生徒は、中学生153人、高校生166人の計319人で、寮の1階を紅組、2階を白組とした中高混成の組に分けて競技に臨みました。

応援団は、紅白ともに、中学1年生から高校3年生まで、異年齢の代表が選出され、8月後半から自主的に練習してきました。当日は、応援団を中心とした全校生徒による応援や、観戦マナーまで指揮を執ってくれました。

制約のある中でのプログラムを余儀なくされましたが、生徒たちは若さと男らしさを、思いっきり表現してくれました。肝付の歴史にちなんだ中学1年生による「薬丸野太刀自顕流演舞」、中学2年生による「楠隼流鎗馬」が行われ、中学3年生は、楠隼中ソーランを力強く演舞しました。

競技・応援の部とも紅組が優勝しましたが、閉会行事の大会会長講評では、全校生



中学校
高校

楠隼は、無観客でも元気ですく

高校生の実施競技は、100m走、200m走、綱引き、徒競走、長縄跳び、背中渡し、紅白対抗高校選抜リレー、紅白対抗リレー、高校生企画がありました。昨年、新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかった悔しさを晴らすように、一人一人が楽しみながらも全力で競技に参加しました。

中でも、各学年に分かれて行われた綱引きでは、各団の意地と意地のぶつかり合いで、最後の最後まで接戦が続ぎ、大いに盛り上がりしました。また、毎年展開が読めない徒競走では、各組ごとに様々なパフォーマンスが見られ、会場を大いに沸かせました。高校三年生の企画では、一人一人が自作した

はっぴを着て、短い練習期間で仕上げたダンスを披露しました。無観客で生徒と教職員のみでの実施でしたが、楠隼一丸となって充実した体育祭となりました。

